

美しい／素敵な／魅力的な女性像の比較ⁱ ——日本人若年女性はどのように表現を 使い分けているのか——

A Comparison Among Standards of Beautiful, Lovely, and Charming Women

——Differences and Nuances in Each Expression for Japanese Young Women——

山田 雅子

YAMADA Masako

要旨：「美しい」「素敵な」「魅力的な」といった評価的表現によって思い描かれる女性像の違いを捉えることを目的とし、関東在住の日本人女子学生87名を対象に調査を行った。各表現に対する32の要素の当てはまり度合いを分析した結果、「美しい女性」は「素敵な女性」「魅力的な女性」よりも有意に総合点が低く、後の2表現の方が多面的な高評価を必要とすることが分かった。また、3表現に対する当てはまり評価を対象に因子分析を行ったところ、〈活発さ〉〈美貌〉〈品格〉〈脱力感〉〈快活さ〉の5因子が抽出された。当該構造上の因子得点に対し分散分析した結果、〈品格〉を除く4因子について表現の主効果が有意であり、「美しい女性」は特に〈美貌〉、「素敵な女性」は〈活発さ〉や〈快活さ〉の強さが捉えられた。残る「魅力的な女性」には、〈快活さ〉が求められず、他の4因子について中庸となる特徴が確認された。

キーワード：美しさ、美、女性、魅力、因子

i 本稿で報告する研究の一部は、日本心理学会第83回大会において発表した（山田, 2019b）。

1. はじめに

女性に対する褒め言葉にはどのようなものがあるであろうか。「美しい」はその代表ともいえるべき表現であろう。辞書には、第一に「受けとる側の主観にてらしあわせて、整っていて心を動かされるような快さを感じさせるさまにいう」、とある（日本語新辞典, 2005）。また、2019年7月現在、「美しい」と「男性」の2語をキーワードとしてインターネットで検索したところ、ヒット数は99,300,000件、一方、「美しい」と「女性」を同様に検索すると、185,000,000件が結果として表示された（サーチエンジンGoogle使用）。当該結果からは、「美しい」という語は男性よりも特に女性と親和性の高い言葉として用いられていることが窺われる。

では、その「美しい」という言葉は、果たして女性たちが求める褒め言葉なのであるか。残念ながら、日本人女子学生に限って言えば、答えはさほど芳しくないようである。「美しい」「魅力的」「かわいい」「きれい」「素敵」を選択肢とした場合、彼女たちが最も求める言葉は「魅力的」であり（約35%）、「美しい」は最下位（約5%）であったとされる（山田, 2018a）。同時に明らかとなったのは、「美しい」という表現が持つ特別感である。5つの表現中、最も特別感が高いと評価された「魅力的」（約51%）に次いで、「美しい」は2番目（約21%）であったという（山田, 2018a）。同じように特別な表現として認識されている「美しい」と「魅力的」であっても、自分自身に対する評価としての響き方には大きな相違があることが推測される。

更に、尾田（2016）は、俳優やタレントのイメージを対象に「美しさ」「魅力」「好み」の評定の違いを検討し、各評価の使い分けがなされていることを指摘している。三者の中では、魅力と好ましさの相関の高かったことも併せて報告されている。当該結果を踏まえれば、「美しい」という語を用いた調査と「魅力的」という語を用いた調査とは、結果に差異が生じる可能性があり、対人魅力研究として一括りに捉えることで解釈を誤る危険性も皆無ではない。

過去には、「美しい」という表現を軸に女性の魅力を探った複数の研究例があるが（山田, 2007, 2015, 2018a, 2019a）、前述のような結果が得られた以上、「美しい」という言葉が女性の対人魅力を探るにあたって最適かどうかという点についても考えてみる必要がある。本研究では「美しい」に加え、「素敵な」「魅力的な」といった表現をターゲットとし、当該表現によって思い描かれる女性像の違いやその特徴について探ることとした。評価的な表現から、現代女性が抱く理想的女性像の一端を導き出すことが本研究の目的である。

2. 方法

2.1 対象者

関東在住の日本人女子学生87名（平均年齢19.04歳）

2.2 調査時期

2018年9月

2.3 調査内容

各対象者に調査用紙を配付し、回答者が抱く各女性像（美しい／素敵な／魅力的）および回答者自身の四者について、先行研究（山田, 2007, 2015, 2019a）に基づく32項目の要素がどの程度当てはまるかを選択させた（「全く当てはまらない」「ほとんど当てはまらない」「あまり当てはまらない」「やや当てはまる」「かなり当てはまる」「非常に当てはまる」の6段階より選択）。また、各表現を用いたくなる女性が身近にいるか否かについても回答を求めた（「いる」「いない」より選択）。

3. 結果および考察

3.1 各女性像のプロフィール

「美しい女性」、「素敵な女性」、「魅力的な女性」および回答者自身に対する32項目の適合度の回答に対し、「全く当てはまらない」を1、「ほとんど当てはまらない」を2、「あまり当てはまらない」を3、「やや当てはまる」を4、「かなり当てはまる」を5、「非常に当てはまる」を6として数値化した。次のFigure 1は当該法による集計結果に基づき得られた各女性像のプロフィールである。

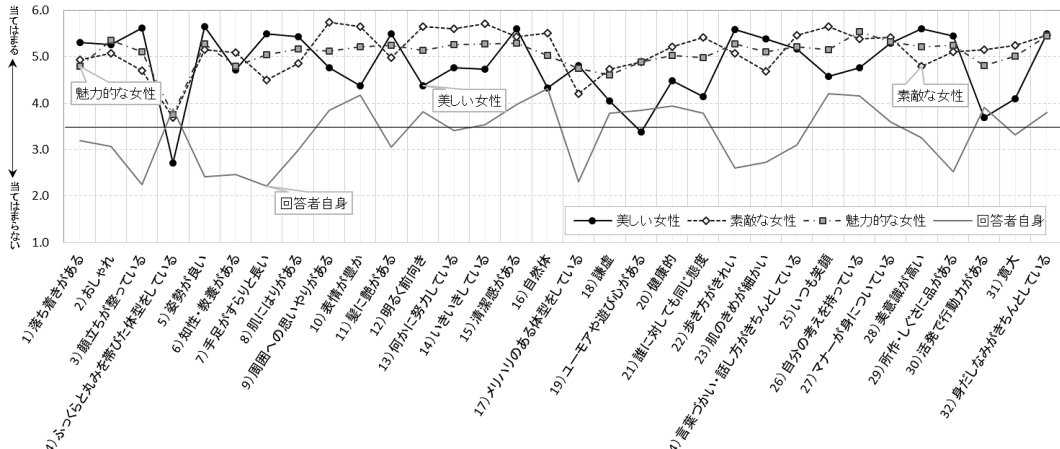


Figure 1 各女性像のプロフィール

Figure 1では、殆どの項目において、回答者自身に対する評定が他の三者と大きく離れていることが確認できる。各項目について一元配置分散分析（4水準）を行った結果、全ての項目について対象（美しい女性・素敵な女性・魅力的な女性・回答者自身）の主効果が有意であり（いずれも0.1%水準）、対象によって当てはまり具合が異なることが統計的にも明らかとなった。

更に、回答者自身に対する評定を省き、他者としての三者について同様の一元配置分散分析を行い、各表現の特徴を検討した。回答者自身を除いたことにより、いずれの項目についてもF値が非常に小さくなったが、「24）言葉づかい・話し方がきちんとしている」「27）マナーが身についている」「32）身だしなみがきちんとしている」を除く29項目において対象（表現）の主効果が有意もしくは有意傾向であった。

「美しい」「素敵な」「魅力的な」といった表現は、いずれも対象に対する高い評価や称賛を示す言葉である。しかしながら、言葉づかい、マナー、身だしなみを除く部分については、比較的明瞭に使い分けがなされていると言える。

次のTable 1-1からTable 1-3の3つの表は、各表現において適合度の平均が「かなり当てはまる」を示す5.0を超える項目を評定平均値の高い方から順に示したものである。前述の三者間分散分析の結果と同様に、適合度上位の項目はそれぞれに特徴があり、「美しい女性」は姿勢や顔立ち、「素敵な女性」は思いやりやいきいきとした印象、「魅力的な女性」は考えにおける自立性や身だしなみなどと特に結びつきが強いことが窺われる。

一方の回答者自身では全項目が5.0を下回り、「やや当てはまる」を示す4.0以上を抽出した場

合でも、「16) 自然体」「25) いつも笑顔」「10) 表情が豊か」「26) 自分の考えを持っている」の4項目に限られる結果であった。回答者自身と各表現によって思い描かれる女性像との間には明瞭な違いが捉えられていると考えられる。全体として、回答者自身に対する当てはまりの低さが目立つと言えるが、「あまり当てはまらない」を示す3.0を下回る項目は、次のTable 2の8項目であった。最低評価であった「7) 手足がすらりと長い」をはじめ、上位3項目は外見的特徴の中でも特に生得的要因の強い要素であると言える。また、「5) 姿勢が良い」「29) 所作・しぐさに品がある」「22) 歩き方がきれい」などは、上位3項目と同様に視覚的に確認できる要素ではあるが、本人の意識次第で改善できるという特徴がある。生得的要因に支配されない要素についても、他者の目に映ることで明らかな判断がなされる要素については、比較的消極的な自己評価がなされると考えられる。

本調査は飽くまで回答者自身による自己評価であるため、実際の回答者の姿についてはここでは判断できない。しかし、本結果からは、回答者による自己評価の低さの背景に、低い自己評価を求める日本独特の社会規範の存在を読み取るべきであろう。Table 2の8項目は、個人の基準よりも社会的な絶対的尺度が先行することが想像される。こうした回答者自身に当てはまりにくい項目が、要件の上位に多数含まれるのが「美しい女性」である（Table 1-1参照）。当該女性像は、回答者本人の持たざるものを多分に有するからこそ、冒頭で紹介した「特別感」が強く意識される可能性があると考えられる。

Table 1-1 「美しい女性」に対する高適合項目（降順並べ替え）

順位	項目	平均値
1	5) 姿勢が良い	5.655
2	3) 顔立ちが整っている	5.621
3	15) 清潔感がある	5.609
4	28) 美意識が高い	5.598
5	22) 歩き方がきれい	5.581
6	7) 手足がすらりと長い	5.494
6	32) 身だしなみがきちんとしている	5.494
6	11) 髪に艶がある	5.494
9	29) 所作・しぐさに品がある	5.448
10	8) 肌にはりがある	5.425
11	23) 肌のきめが細かい	5.391
12	1) 落ち着きがある	5.310
13	27) マナーが身についている	5.287
14	2) おしゃれ	5.264
15	24) 言葉づかい・話し方がきちんとしている	5.172

Table 1-2 「素敵な女性」に対する高適合項目（降順並べ替え）

順位	項目	平均値
1	9) 周囲への思いやりがある	5.747
2	14) いきいきしている	5.713
3	10) 表情が豊か	5.655
3	12) 明るく前向き	5.655
5	25) いつも笑顔	5.644
6	13) 何かに努力している	5.609
7	16) 自然体	5.506
8	32) 身だしなみがきちんとしている	5.471
9	24) 言葉づかい・話し方がきちんとしている	5.460
10	15) 清潔感がある	5.437
11	21) 誰に対しても同じ態度	5.414
11	27) マナーが身につけている	5.414
13	26) 自分の考えを持っている	5.379
14	31) 寛大	5.241
15	20) 健康的	5.221
16	30) 活発で行動力がある	5.161
17	5) 姿勢が良い	5.149
18	29) 所作・しぐさに品がある	5.103
19	6) 知性・教養がある	5.092
20	22) 歩き方がきれい	5.080
21	2) おしゃれ	5.069

Table 1-3 「魅力的な女性」に対する高適合項目（降順並べ替え）

順位	項目	平均値
1	26) 自分の考えを持っている	5.535
2	32) 身だしなみがきちんとしている	5.452
3	2) おしゃれ	5.349
4	27) マナーが身につけている	5.326
5	15) 清潔感がある	5.291
6	22) 歩き方がきれい	5.282
7	5) 姿勢が良い	5.279
7	14) いきいきしている	5.279
9	13) 何かに努力している	5.267
10	11) 髪に艶がある	5.244
10	29) 所作・しぐさに品がある	5.244
12	10) 表情が豊か	5.221
12	28) 美意識が高い	5.221
14	24) 言葉づかい・話し方がきちんとしている	5.209
15	8) 肌にはりがある	5.163
16	25) いつも笑顔	5.151
17	12) 明るく前向き	5.140
18	9) 周囲への思いやりがある	5.116
19	23) 肌のきめが細かい	5.106
20	3) 顔立ちが整っている	5.105
21	7) 手足がすらりと長い	5.047
22	20) 健康的	5.024
23	16) 自然体	5.023
24	31) 寛大	5.012

Table 2 回答者自身に対する非適合項目（昇順並べ替え）

順位	項目	平均値
1	7) 手足がすらりと長い	2.212
2	3) 顔立ちが整っている	2.247
3	17) メリハリのある体型をしている	2.306
4	5) 姿勢が良い	2.424
5	6) 知性・教養がある	2.471
6	29) 所作・しぐさに品がある	2.530
7	22) 歩き方がきれい	2.600
8	23) 肌のきめが細かい	2.729

3.2 総合点による各女性像の比較

表現による女性像の違いを確認するため、回答者自身に対する評価を除く32項目の総合点（32～192点）を一元配置分散分析により検定した結果、表現（3水準）の主効果が有意であった（ $F_{(2, 259)}=8.05, p<.01$ ）。多重比較検定により、「美しい女性」が他の二者よりも有意に総合点が低いことが確認された。3.1のTable 1-1からTable 1-3の項目数の違いにも表れているように、「美しい」に比して、「素敵」「魅力的」といった表現の方が多面的な高水準を求めていることが分かる。

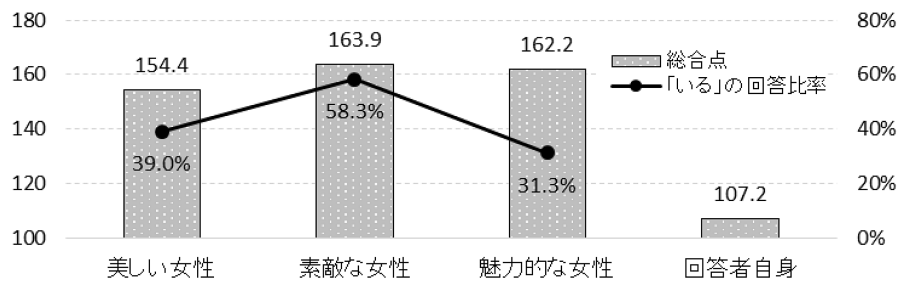


Figure 2 各女性像および回答者自身の総合点／身近な存在の有無

3.3 回答者自身と各女性像の差

回答者自身の自己像と各女性像との差を算出し（各女性像－自己像）、32項目のずれの総合点について一元配置分散分析により検定した結果、表現（3水準）の主効果が有意であった（ $F_{(2, 251)}=3.85, p<.05$ ）。特に「素敵女性」と回答者の自己像との違いが顕著であり、心理的距離が最も大きいことが統計的に明らかとなった。

3.1の分析においては、回答者自身に当てはまりにくい項目の多くが、「美しい女性」に当

てはまる項目の上位を占めることを指摘した。しかし、全体としては「素敵な女性」が回答者の自己像と大きな違いを持つことになる。

後述するように、「素敵な女性」については、そのように表現したくなる女性が身近に存在するとの回答率が3表現の中でも最も高いとの結果が得られているが、当該傾向は（3.5参照）、「素敵な女性」像の要件と回答者自身が持つ特徴との親和性によることが考えられる。すなわち、回答者自身にも若干当てはまると感じられる要素を、より強く、より広範に持つのが「素敵な女性」であり、各要素の強度や範囲の広さこそ、「素敵な女性」の特徴とも考えられる。

3.4 因子分析による各女性像の比較

前述の処理により数値化した各評定に対し、因子分析（主因子法斜交プロマックス回転）を行った。なお、本分析では評価的な女性像に関わる因子構造を捉えるため、回答者自身に対するデータは対象から除外した。Table 3は当該方法によって得られた因子パターンである（累積寄与率54.85%）。抽出された5つの因子には、それぞれ〈活発さ〉〈美貌〉〈品格〉〈脱力感〉〈快活さ〉と名付けた。

Table 4は各因子の主な構成要素を示した表、Figure 3は、第1因子である〈活発さ〉を横軸、第2因子である〈美貌〉を縦軸に配し、各項目をプロットした図である。X軸およびY軸付近に多くのマーカーが分布していることが確認できるが、両因子に深く関わる要素はほとんど見られず、独立性の高さが窺われると言える。なお、これら2因子の累積寄与率は約45%であり、因子構造の約半分を説明できることになる。

本調査と同様に、日本人女子大学生を対象とした調査においては、美しさの因子構造として〈心づかい〉〈プロポーション〉〈清潔感〉〈自己の確立〉〈整った顔〉の5因子が抽出されている（山田, 2015）。当該結果は、人を「美しい」「美人」と表現する際の適合度を尋ねた結果として求められたものである。調査項目は本調査と若干内容が異なり、24種に限られているため、両調査結果の違いが表現の違いに起因するものであるとは即座に断定できない。しかし、用いる表現によって喚起される人物像の意味的まとまりに変化が生じる可能性は残されると言える。

Table 3 3対象のデータに基づく因子パターン（主因子法斜交プロマックス回転）

	因子1 活発さ	因子2 美貌	因子3 品格	因子4 脱力感	因子5 快活さ	共通性
19) ユーモアや遊び心がある	0.923	0.063	-0.164	0.037	-0.189	0.761
30) 活発で行動力がある	0.830	0.014	-0.090	-0.117	-0.136	0.645
16) 自然体	0.750	-0.016	-0.086	0.063	0.082	0.572
14) いきいきしている	0.718	0.032	-0.075	-0.114	0.455	0.798
10) 表情が豊か	0.717	-0.020	-0.085	0.024	0.344	0.689
12) 明るく前向き	0.713	-0.047	0.094	-0.097	0.212	0.679
31) 寛大	0.712	-0.060	0.182	-0.086	-0.110	0.609
13) 何かに努力している	0.692	0.017	0.056	-0.190	0.195	0.621
25) いつも笑顔	0.662	-0.034	0.043	0.034	0.320	0.647
21) 誰に対しても同じ態度	0.603	-0.145	0.303	0.105	-0.024	0.587
26) 自分の考えを持っている	0.586	0.035	0.134	-0.280	-0.073	0.465
20) 健康的	0.549	0.147	0.045	0.192	0.052	0.360
18) 謙虚	0.530	0.031	0.369	0.024	-0.149	0.500
4) ふっくらと丸みを帯びた体型をしている	0.505	0.155	-0.118	0.107	-0.091	0.227
9) 周囲への思いやりがある	0.498	-0.084	0.366	0.091	0.088	0.526
8) 肌にはりがある	0.133	0.875	-0.156	-0.060	0.092	0.680
11) 髪に艶がある	0.010	0.821	-0.024	0.169	0.026	0.673
23) 肌のきめが細かい	-0.007	0.810	0.095	0.119	-0.062	0.717
7) 手足がすらりと長い	-0.131	0.740	0.070	-0.263	-0.026	0.733
3) 顔立ちが整っている	-0.123	0.657	-0.022	-0.238	0.012	0.547
28) 美意識が高い	-0.195	0.510	0.249	-0.136	-0.138	0.500
2) おしゃれ	0.183	0.484	-0.087	-0.410	0.034	0.389
17) メリハリのある体型をしている	0.211	0.479	0.032	0.004	-0.054	0.245
5) 姿勢が良い	0.000	0.444	0.284	-0.266	0.133	0.485
22) 歩き方がきれい	-0.081	0.410	0.367	-0.025	0.107	0.429
15) 清潔感がある	0.036	0.368	0.375	0.047	0.256	0.469
24) 言葉づかい・話し方がきちんとしている	0.070	-0.028	0.820	0.006	0.135	0.756
27) マナーが身につけている	0.142	0.023	0.742	0.077	0.046	0.652
29) 所作・しぐさに品がある	-0.077	0.152	0.683	-0.078	-0.142	0.542
6) 知性・教養がある	0.108	-0.064	0.615	-0.067	-0.096	0.403
1) 落ち着きがある	-0.152	0.128	0.420	-0.309	0.028	0.347
32) 身だしなみがきちんとしている	0.132	0.228	0.384	-0.029	0.030	0.298
寄与率	0.262	0.193	0.051	0.021	0.021	
累積寄与率	0.262	0.455	0.506	0.528	0.548	

Table 4 各因子名と主な構成要素

因子名	構成要素
因子1 活発さ	ユーモアや遊び心がある、活発で行動力がある、自然体、いきいきしている、表情が豊か、明るく前向き、寛大、何かに努力している、いつも笑顔、誰に対しても同じ態度、自分の考えを持っている、健康的、謙虚、ふっくらと丸みを帯びた体型をしている
因子2 美貌	肌にはりがある、髪に艶がある、肌のきめが細かい、手足がすらりと長い、顔立ちが整っている、美意識が高い、おしゃれ
因子3 品格	言葉づかい・話し方がきちんとしている、マナーが身につけている、所作・しぐさに品がある、知性・教養がある
因子4 脱力感	おしゃれ（-）、落ち着きがある（-）、自分の考えを持っている（-）、姿勢が良い（-）、手足がすらりと長い（-）
因子5 快活さ	表情が豊か、明るく前向き、いつも笑顔、清潔感がある

※（-）を付した項目は、負の負荷量を持つ。

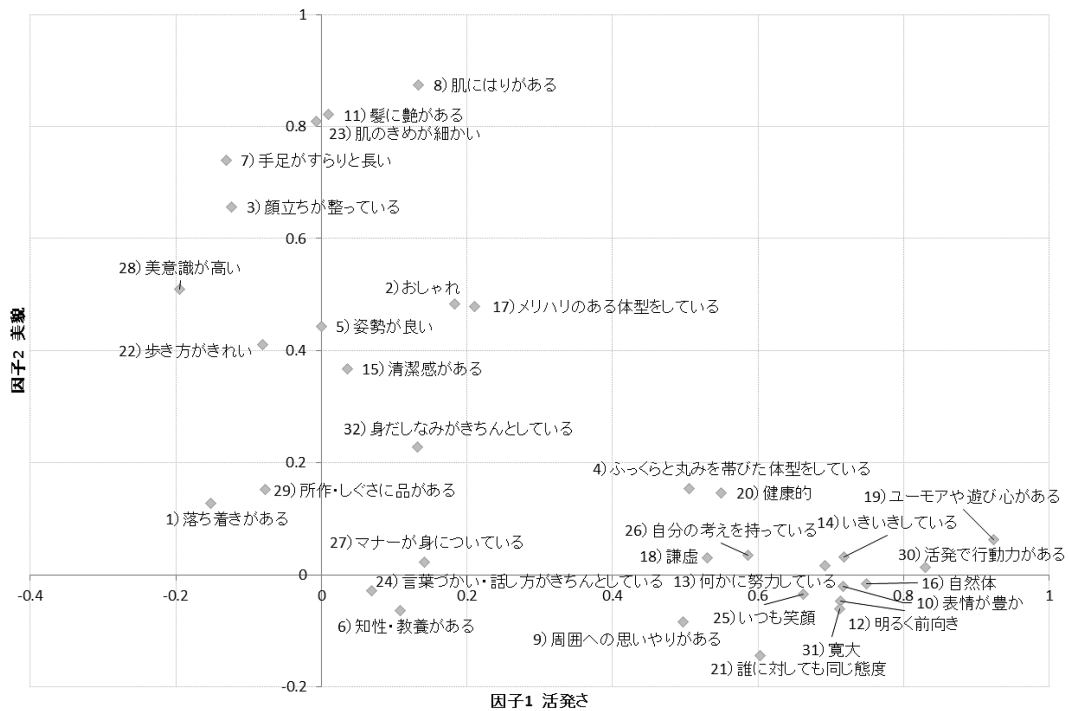


Figure 3 因子負荷量による各項目のプロット（活発さ×美貌）

一方、本調査と共通の32項目を用い、20代から60代までの女性を対象として、「美しい」「美人」と女性を表現する際の適合度を調べた研究もある。結果として導出された因子は、〈活発さ〉〈美貌〉〈聡明さ〉〈包容力〉〈美意識〉の5つである（山田, 2018b）。因子の構成要素までが完全に一致するわけではないが、第1因子に〈活発さ〉、第2因子に〈美貌〉が現れることは本調査と共通しており、第3因子の〈聡明さ〉と本調査の〈品格〉との間にも重なる要素が幾つも見られる。ここから推察されるのは、意味構造上のまとまりにおいて、対象者の年齢幅と言語的表現の幅が共通の働きを見せることである。つまり、年齢を重ねるほど「美しい」「美人」という表現の内に「素敵な」「魅力的な」といった表現が持つ意味までが取り込まれていく。或いは、「美しい」「美人」の意味が「素敵な」「魅力的な」の意味へとシフトしていくことが考えられる。

また、本調査において導出された〈脱力感〉の因子は種々の先行研究に見られないものであり、「2) おしゃれ」「1) 落ち着きがある」「26) 自分の考えを持っている」等の項目においてマイナスの負荷量を持つという特徴がある。すなわち、当該因子の得点が高いほど、「おしゃれでない」「落ち着きがない」「自分の考えがない」ということになるが、そうした際とも言える要素が

一つのまとまりとなっていると考えられる。

なお、各因子間の相関は次のTable 5の通りである。相対的には〈美貌〉と〈品格〉との間の相関係数がやや高いが、一般的な水準に照らした場合、いずれの因子間も強い相関とは表現し難い。「1) 落ち着きがある」「2) おしゃれ」など、複数の因子に関わる項目も認められるが、本分析からは比較的独立性の高い因子が抽出されたと言える。

Table 5 因子間の相関

因子間相関	活発さ	美貌	品格	脱力感	快活さ
快活さ	1.000	-0.202	0.272	0.018	0.172
美貌	-	1.000	0.317	-0.057	0.011
品格	-	-	1.000	-0.070	0.177
脱力感	-	-	-	1.000	0.000
快活さ	-	-	-	-	1.000

前述の構造において各表現の因子得点を算出したところ、Figure 4が得られた。因子得点に対する一元配置分散分析の結果、〈品格〉を除く4因子については表現（3水準）の主効果が有意であることが確認された。三者を比較した場合、「美しい女性」は〈美貌〉が特に際立っており、〈活発さ〉が問われないことが特徴、「素敵な女性」は〈活発さ〉〈快活さ〉〈脱力感〉がある一方で、〈美貌〉が問われないことが特徴、「魅力的な女性」は〈快活さ〉がさほど求められず、他の因子についても中程度に求められることが特徴と言える。

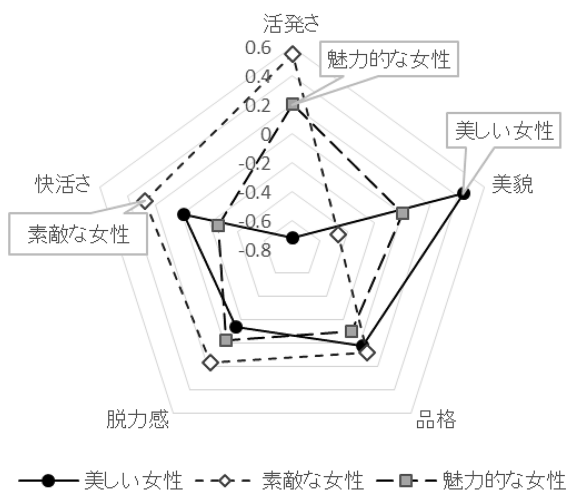


Figure 4 各女性像の因子得点

3.5 各表現に適う存在の有無

身近にそう表現したくなる女性が「いる」との回答は、「美しい女性」について約39%、「素敵な女性」について約58%、「魅力的な女性」では約31%であった (Figure 2参照)。3.2 および3.3に示したように、「素敵な」との表現は総合点も自己像とのずれも3種の表現中で最大であった。しかし、身近に当該表現に適した人物がいるとの回答者が半数以上を占めたことになる。

評価基準がより厳しいということは身近な人物としては存在しにくいことが予想されるが、本調査では正反対の結果が得られた。すなわち、身近な存在があるからこそ一層基準が明瞭になり、自身と「素敵な女性」との差異が強く実感されたことが考えられる。

一方で、総合的な基準の高さは「素敵な女性」と同程度ながら、約3分の2の回答者が身近に存在しないと回答したのが「魅力的な女性」である。「魅力的」という表現が20歳前後の女子大学生には親近感のない表現であったことが考えられる。また、可能性の一つとして、同性同士では用いられにくい表現であることも検討する必要がある。

4. 総合考察

本調査結果から、日本人女子学生は評価的な表現を少なからず使い分けていることが明らかとなった。概して、「美しい女性」には外見的側面が特に求められる傾向が捉えられた。冒頭で紹介した「美しい」の意味、「受けとる側の主観にてらしあわせて、整っていて心を動かされるような快さを感じさせるさまにいう」には補足があり、「『美しい』は、かなり主観的な要素をもつ語であり、ただ整っているだけではなく、感動を呼び起こすほどの精神的な快さについて」と加えられている (日本語新辞典, 2005)。辞書上では、「主観」が強調されているが、中でも「整っている」ということが重要な特徴であり、本調査においては、他の2表現に比して外見的な要素について「整っている」ことが求められたと捉えられる。対する「素敵な女性」においては、外見よりも行動的、内面的な活発さが重視されていることが読み取れる結果となった。「素敵」という語の辞書上の第一の意味は、「すぐれていたり、よい感じだったりして、心がひきつけられるさま」とある (日本語新辞典, 2005)。「心がひきつけられる」という表現が含まれているが、「整っている」という要素が求められる「美しい女性」よりも、よりパーソナルな私的基準に従って評価される表現が「素敵」と言う言葉であることが窺われる。更に、「魅力」

の意味は、「接する人の気持ちを強くとらえる力」とされる（日本語新辞典, 2005）。「素敵」における「心がひきつけられる」と非常に似通った表現であり、本調査において得られた特徴も、総得点が高いなど「素敵な女性」と共通する部分も見られた。だが、各因子得点の標準偏差は「素敵な女性」に比して「魅力的な女性」の方が高く、ばらつく傾向にあると言える。少なくとも、日本人女子学生においてはより定義が難しい表現と考えられる。

各分析において得られた3表現の特徴は、以下のTable 6のようにまとめることができる。これらは飽くまで「美しい女性」「素敵な女性」「魅力的な女性」の三者を比較した場合の特徴ではあるが、女性の対人魅力を探ろうとした場合には、各表現の特性を踏まえておく必要がある。例えば、外見的特徴にさほど注目せず、より身近なモデルが存在する可能性の高い女性の理想像に迫ることを目的とするのであれば、「素敵」という語を用いるべきであろうし、理想像の個性に注目するならば、「魅力的」という語を用いることも一つの選択肢となる。

女性の魅力研究において、「美しい」という語は非常に重要な表現であることは間違いない。その点については、本調査においても改めて確認できた。しかし、「美しい」という語に固執することなく、目的に合った表現を選択していくことが肝要と言える。

Table 6 各表現の特徴

	他よりも重視される因子	非重視因子	要件の幅	身近な存在
美しい女性	美貌	活発さ	比較的狭い	39.0%
素敵な女性	活発さ、快活さ、脱力感	美貌	比較的広い	58.3%
魅力的な女性	—	快活さ	比較的広い	31.3%

5. 今後の課題

本研究により、日本人女子学生が抱く各女性像が明らかとなった。しかし、注意しなければならないのは、本調査で用いた32項目は、過去の美しい女性像の調査結果から導き出されたものである（山田, 2007, 2015, 2019a）。すなわち、「美しい」という表現と関わりの深い要素を調査項目として用いたことになる。危惧されるのは、「素敵な」「魅力的な」女性像が、これらに含まれない要素によって構成される可能性である。予め項目を用意するのではなく、自由回答から「素敵な女性」「魅力的な女性」について探ることも必要と考える。

また、対象者の拡大（性別・年代）や対象語（表現）の拡大によっても新たな発見があると予

想される。更に、各種女性誌における理想的女性像を示す表現の分析なども時代的な背景を探る一助となるであろう。

6. まとめ

日本人女子学生87名を対象として女性に関する3種の表現について調査を行った結果、次のような傾向が認められた。

- 1) 言葉づかい、マナー、身だしなみを除く部分について、「美しい女性」「素敵な女性」「魅力的な女性」は区別して捉えられている。
- 2) 回答者自身に対して各項目の当てはまり評価は低く、特に視覚的に確認できる要素については、低い適合度が示される。
- 3) 「素敵な女性」「魅力的な女性」に対しては、「美しい女性」よりも多面的な要求水準の高さが見られる。
- 4) 「美しい女性」「素敵な女性」「魅力的な女性」に関わる意味構造は、〈活発さ〉〈美貌〉〈品格〉〈脱力感〉〈快活さ〉の5因子によって構成される。
- 5) 「美しい女性」「素敵な女性」「魅力的な女性」の3表現の因子得点を比較した場合、「美しい女性」と「素敵な女性」は対比的であり、前者は〈美貌〉が重要条件である一方で〈活発さ〉はさほど重視されず、対する「素敵な女性」は〈快活さ〉が重視される一方で〈美貌〉は注目されない。他方、「魅力的な女性」は〈快活さ〉が重視されないということ以外には突出した部分がなく、中庸な表現として捉えられている。
- 6) 身近な存在の有無は各表現間で差があり、回答者の半数には、3)の通り、最も基準の高いはずの「素敵な女性」が身近に存在すると捉えられている。

謝辞

本研究は、株式会社ワコール人間科学研究所と共同で行う女性美研究に関連して進められたものである。同所の岸本泰蔵氏、上家倫子氏よりお力添えを頂戴したことをここに記し、感謝申し上げる。

参考文献

- 尾田政臣「美しさ・魅力・好ましさ評定の項目間の関係」『日本認知心理学会第13回大会発表論文集』, p. 148, 2015.
- 松井栄一編『日本語新辞典』小学館, 2005.
- 山田雅子「女子短大生に見る現代女性の美人観」『埼玉女子短期大学研究紀要』 第18号, pp. 213-226, 2007.
- 山田雅子「日本人若年女性が抱く美的価値観の因子構造－構成要素の重視度に対するアプローチ－」『埼玉女子短期大学研究紀要』 第32号, pp. 61-75, 2015.
- 山田雅子「日本人若年女性が抱く女性美の探索的調査(1)－美にまつわる人物・語感・行為－」『埼玉女子短期大学研究紀要』 第38号, pp. 23-36, 2018a.
- 山田雅子「日本人女性が抱く美しい女性像の年代間比較－年齢によって女性の美しさの基準は異なるのか－」『日本心理学会第82回大会発表論文集』 p. 2044, 2018b.
- 山田雅子「日本人若年女性が抱く女性美の探索的調査(2)－女性美の構成要素－」『埼玉女子短期大学研究紀要』 第39号, pp. 13-25, 2019a.
- 山田雅子「美しい／素敵／魅力的な女性像の比較－日本人若年女性はどのように表現を使い分けているのか－」『日本心理学会第83回大会発表論文集』 印刷中, 2019b.